

京田辺の障害者就労支援事業所「さんさん山城」

京田辺市興戸の障害者就労支援事業所「さんさん山城」が、農業を中心とする就労支援事業を開始して5年が経過した。利用者が育てた京田辺特産の茶やエビイモ、ナスが人気を集め、加工食品の売り上げも伸びている。来春に事業所内でカフェを開く準備を進めるなど、地域に密着した事業所を目指しているが、利用者の就職が課題となっている。(山木秀二)



エビイモの収穫に励む利用者ら(京田辺市東)



利用者が生産した農産物や加工食品が次の即売会(京田辺市役所)

技能生かし農産品販売順調

毎週木曜の昼、京田辺市役所(同市田辺)2階 設利用者が生産した物品

就職・自立なお課題

が販売されている。20日は、さんさん山城の利用者が生産した田辺なすや万葉草(コナシ)から、抹茶入り大福餅が1時間ほどで大半が売れた。利用者の川原林敬啓さん(40)は「山木」は「育てた野菜で、人に喜んでもらえるのがうれしい」と話す。

さんさん山城は市内6カ所(計約0.5ha)の畑を借り、利用者が野菜などを育てている。市役所などでの即売会や地元JJAを通じて出荷で、農産収入は5年で約2倍に増えた。管理者の藤永美奈さん(63)は「販売は利用者への励み。品質向上への努力を続けたい」と話す。

事業所では種製や小物作りなど利用者の技能を生かした製品作りが行われており、農産物の加工力を入れている。職員

と利用者が考案したエビイモのコロケや、抹茶を使った大福餅とクッキーは看板商品になった。事業所収入のうち、農業と加工食品の収入が約9割を占める。昨年12月には農薬を通じて障害者の雇用拡大を目指す「農福連携」の先進事例として、事業所の取り組みが農林水産省でパネル展示された。

さらに、野菜や加工食品を地域住民に味わってもらう場所を作ろうと、約100平方メートルの訓練作業室を活用し、食事やお茶を提供するコミュニケーションカフェを来春に開店する予定だ。職員の中野容子さん(62)は「気軽に立ち寄り、くつろいでもらえれば、利用者と住民が交流できる場にもなつてほしい」と期待する。



さんさん山城 京都府京田辺市興戸 障害者就労支援事業所 職員 中野容子(62) 同市(左)で、11月1日に就労支援事業を始めた。現在登録利用者約30人



仏書の書ならなんなりと、ご用度なさい。
誠心堂
〒613-0033 京田辺市久御山町林高黒1-8
TEL 0774(45)1212 FAX 0774(45)1214
nanbu@mb.kyoto-np.co.jp

京都支社
〒613-0033 久御山町林高黒1-8
代表 0774(45)1212 FAX 0774(45)1214
nanbu@mb.kyoto-np.co.jp

京田辺・学研総局
〒610-0334 京田辺市田辺中央1-15 B I T アイビル3F
代表 0774(63)7433 FAX 0774(68)1414
kyotanab@mb.kyoto-np.co.jp

板本 英人 35 無新① 建設業、第一経済 大中退、笠置	松本 俊清 75 無現③ 無職、上野商工高 卒、有市	大倉 博 70 無元② 無職、社協評議員、 木津高卒、笠置	田中 良三 63 無現② 農業、木津高卒、 有市
---------------------------------------	-------------------------------------	--	-----------------------------------

氏名、年齢、所属、新旧、当選回数、職業・科書(経歴)、最終学歴、現住所の順。敬称略。



山手に広がる茶畑を眺めた。結婚式の準備中、新婦が嫁入り着を着る様子。(高橋久)

八幡
生保町センター書庫
11月12日午後1時20分
文化センターホール
桂南光、無料、400人
(多数は抽選)。申し込
みは往復はがきで7日
4日18時37分、男山生
3の1B51棟、8幡市
活保報センター2075
(083)8400宛て。
28日(発行有効)締め切
り。1枚2人まで。

木津川
スパーマン事務所
室&ターフオツチング
11月5日午後6時7時
15分、加茂グラウンド
△電話(76)7645。
△会場(76)7645。
△バス、スパーマンにつ
みの話や星空オツチン
2。先着70人(中学生以
下は保護者同伴)。要観
覧料(市内の小中学生以下
は無料)。要予約。
ニースポーツフェス

ゼロホームの100年住宅は 標準で15年

世界遺産醍醐寺

親子で学ぶ

世界遺産醍醐寺は、山林に分け入って修行を行う修験道の者を「山伏」といいます。上醍醐への登山や文化財の拝観です。自然をありのままに感じ、人間が自然の中で生きてい